

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2025
APRIL

No. 729

Sat. 5th April
Subscription Concert

No. 144

Sat. 12th April
Tokyo Opera City Series

4



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督	ジョナサン・ノット
桂冠指揮者	秋山和慶 ◆
	ユベール・スダーン
正指揮者	原田慶太楼
名誉客演指揮者	大友直人
永久名誉指揮者	アルヴィド・ヤンソンス ◆
	上田 仁 ◆
	遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター	大谷康子
第1コンサートマスター	小林杏成 グレブ・ニキティン
コンサートマスター	田尻 順

会長	澤田秀雄
理事長	岡崎哲也
副理事長	平澤 創 依田 巽
専務理事	廣岡克隆
理事	阿部武彦 辻 敏 池辺晋一郎 永山 治 伊藤美樹 夏野 剛 大橋 博 南部靖之 コンジユンコ 福川伸次 菅谷貴子 増岡聡一郎 竹中平蔵 森 京子
監 事	寺西基之 渡邊芳樹
評議員長	金山茂人
最高顧問	
評議員	梅沢一彦 星 久人 鷲海量明 山添 茂 片山泰輔 芳野まい 加藤英輔
特別顧問	飯島延浩 草壁悟朗 福田紀彦

【ハーブ寄贈：環境ステーション株式会社】

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 森岡ゆりあ
- 小川敦子
- 小山あずさ
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 水谷有望
- 吉川万理

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 加藤まな
- 福留史純
- 河根あずさ
- 鈴木浩司
- 辻田薫り
- 阿部真弓
- 坂井みどり

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 新井瑞穂
- 小西成興
- 鈴木まり奈

Cellos

- ☆伊藤文嗣
- 笹沼 樹
- 川井真由美
- 内山剛博
- 笠江慶行 ●
- 樋口泰世
- 福崎茉莉子
- 渡邊ゆかり *

Double Basses

- 助川 龍
- コーディ・ローズブーム
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子

Flutes

- 相澤政宏
- 竹山 愛

Flute & Piccolo

- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 給理子
- 荒木良太
- 浦脇健太

Oboe & English horn

- 最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴェー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子

Bassoons

- 福士マリ子
- 福井 蔵
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 加藤智浩
- 白井有琳
- 藤田麻理絵 *

Trumpets

- 澤田真人
- ローリー・ディラン
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌

Trombones

- 大馬直人
- 鳥塚心輔
- 住川佳祐

Bass Trombone

- 藤井良太

Tuba

- 近藤陽一

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 山村雄大
- 武山芳史
- 綱川淳美

Harp

- 渡辺沙羅 *

Librarians

- 林 知也
- 加藤幸子

Stage Managers

- 西岡理佐
- 山本 聡

楽団員

- 井伊 準 ◆

楽団長

- 廣岡克隆

編成局シニアディレクター

- 藤原 真

編成局パーソンネルマネージャー

- 謝名元 民

楽団委員

- 北村一平 (議長)
- 多井千洋 (書記)
- 浦脇健太
- 鈴木浩司
- 福留史純
- 最上峰行

事務局長

- 辻 敏

事務局

- 尾木貞雄
- 高瀬 緑
- 市川萌都
- 伊藤埃海
- 榎 日向
- 小川博司
- 桐原美砂
- 長久保宏太朗
- 三橋真琴
- 山田道子
- 梶川純子
- 塩谷しずか
- 山本未央子 *

- 名譽団友
- 深江泰輔 ◆
- 二本靖雄 ◆

団 友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彩雄
- 内田乃利子
- 宇部 実
- 梅田 孝
- 大隈雅人
- 大塚正昭
- 大楚展男
- 大和田浩明
- 大和田ルース
- 小川さえ子
- 狭野 昇
- 奥田昌史
- 首川健二
- 加藤直直美
- 笠原勝二
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 黄原亮司
- 小林照雄
- 小林利彰
- 小林亮子
- 阪本正彦
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 篠崎 隆
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 芹澤英雄
- 曾根敦子
- 高野成之
- 武田英昭
- 田中典雄
- 千村雅信
- 内田裕子
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 永井聖乃
- 中塚和良
- 中家博則
- 中山 智
- 西佐智子
- 西脇秀治
- 野村典澄
- 馬場弘弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアンテ・ボーマン
- 前田健一郎
- 松崎里絵
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みさ子
- 諸橋健久
- 渡辺 功
- 渡辺哲郎
- 渡辺裕子

☆ソロ首席奏者 □客演首席奏者 ○首席奏者 ○フォアシュペラー ●インスペクター
■本部長 □部長 □シニアディレクター *研究員・準事務局長 ◆故人

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出している鑑賞や、つばの広い/高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は、場内に響きますのでご遠慮下さい。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。

※スマートフォン、携帯電話以外のカメラでの撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

4/5 SAT.

第729回 定期演奏会

2025年4月5日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.729

Sat. 5th. April 2025, 18:00 Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]
グレブ・ニキティン [コンサートマスター]Jonathan NOTT, Conductor
Gleb NIKITIN, Concertmasterブルックナー:交響曲 第8番 ハ短調
WAB108 (第1稿/ノヴァーク版) (84')A. BRUCKNER: Symphony No.8 in C minor,
WAB108 (1st edition/Novak version) (84')I. アレグロ・モデラート
II. スケルツォ: アレグロ・モデラート
III. アダージョ
IV. フィナーレI. Allegro moderato
II. Scherzo: Allegro moderato
III. Adagio: Feierlich langsam, doch nicht schleppend
IV. Finale: Feierlich nicht schnell

- 主催/公益財団法人 東京交響楽団
- 後援/在日スイス大使館、プリティッシュ・カウンシル

本公演には休憩がありません。

楽曲解説はP.5をご覧ください

4/5 SAT.



©K. Miura

Jonathan NOTT

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

東京交響楽団第3代音楽監督。イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン響首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、EIC音楽監督、バンベルク響首席指揮者を経て、2017年よりスイス・ロマン管音楽監督も務める。抜群のプログラミングセンスと古典から現代曲まで幅広いレパートリーで、主要オーケストラ・音楽祭に客演。2010年バンベルク響とのCDが、世界で権威ある仏Midem音楽賞最優秀交響曲・管弦楽作品部門賞受賞。2009年バイエルン文化賞受賞。2016年バンベルク大聖堂にて大司教より功労勲章を授与。東響とともに2020年「ミュージック・ペンクラブ音楽賞(オペラ・オーケストラ部門)」を、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」、毎日クラシックナビ「公演ベスト10」において、R.シュトラウス・コンサートオペラシリーズ《サロメ》、《エレクトラ》をベストコンサートに導く。レコーディング活動でも多彩な才能を発揮し、ウィーン・フィルやベルリン・フィルとの録音のほか、東響とはオクタヴィアレコードより多くのCDをリリースしている。

Among today's renowned and interesting conductors, Jonathan Nott, is probably the most fascinating. His unique talent unites what appear to be irreconcilable opposites, creating deeply emotional yet gratifyingly intellectual interpretations, connecting to his musicians at the very humblest level, and bringing an unusual depth of analysis and spontaneous, heartfelt music-making, both in the symphonic and operatic repertoires, and in the field of contemporary music in all areas of music. As Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra, he enjoys near Popstar status, due not only to his intense and explosive aura while performing but also to his unusual programming creativity. Together with the TSO, he won "BEST CONCERT 2023" by Ongaku-no-tomo and "Best 10" by Mainichi Classical Navi for the concert opera series of R. Strauss "Salome" and "Elektra" as well as the 2020 Music Pen Club Japan Award. Unsurprisingly, he has conducted all major orchestras, performed with almost all famous soloists, and enjoys a long list of award-winning multi-channel recordings with TUDOR, SONY, PENTATONE and OCTAVIA.

アントン・ブルックナー(1824～1896)

交響曲 第8番 ハ短調 WAB108(第1稿/ノヴァーク版)

「終楽章はわたしの生涯の中でも、もっとも優れたものです」——生涯に9つの番号付き交響曲を書いたオーストリアの作曲家アントン・ブルックナーは、1885年8月16日、教え子宛ての手紙にそう書いた。ここで話題に挙げられている作品が交響曲第8番だ。

第8番の作曲を進めていた1884年から1887年の約3年の間に、交響曲第7番や弦楽五重奏曲、《テ・デウム》等が初演され、作曲家としてのブルックナーの名は広く知られるようになっていた。そうした状況の中で創られた第8番に、ブルックナーは大きな自信を持っていたはずだ(冒頭の一節もその自信の表れだろう)。ミュンヘンで行われた第7番の重要な演奏会を担った指揮者ヘルマン・レーヴィに宛てて、ブルックナーは第8番の完成をこう伝えた。「ハレルヤ!第8番がようやく完成しました。もしできれば、まずレーヴィ殿に演奏をお願いしたいと考えております。その上で、皇帝陛下[フランツ・ヨーゼフ1世]に献呈を受け入れていただけるようお願いしたいのです」。しかし、レーヴィは送られてきた第8番の総譜を見て驚愕した。彼は作曲者にどう返事すべきか、ブルックナーの教え子のひとりであるヨーゼフ・シャルクに相談している。「第8番になじめず、演奏する自信がありません。全体に楽器の扱いに難があります。第4楽章は読み解くことのできない本のようです」。

ブルックナーが「優れている」と考えた第4楽章を、彼が「芸術上の父」と呼び慕ったレーヴィには読み解いてもらうことができなかった。レーヴィの困惑を知らされたブルックナーは、第8番を書き換えてゆくことになる(この書き換えにブルックナーが前向きだったかについては様々な意見がある)。その結果、第8番には1887年に完成した状態の第1稿と、それが書き換えられ1890年に完成した第2稿が存在することになった。

第1稿はブルックナーの死後長らく日の目を見ることはなかったが、音楽学者レオポルト・ノヴァークが1972年に校訂譜を出版したことで広く知られるようになった。音楽学者ポール・ホークショーによる校訂譜(2022年)も出版されたが、聴いてわかる違いはほとんどないと言ってよく、いまだノヴァーク版が主流である。

ブルックナーの交響曲では、基本的に**第1楽章**の主要主題の提示によって作品全体の中心となる調が確立される。しかし、第8番はそうではないどころか、ヴィオラとチェロ、コントラバスによって提示される主要主題自体もどこか曖昧だ。ブルックナーは後年「わたしの第8番は神秘です」と語ったと伝えられているが、その言葉通り摩訶不思議な状態

で第8番ははじまるのである。その後弦楽器群が中心となってはじまる歌の主題(=副次主題)と、それが発展した結尾主題が示され、展開されてゆく。コーダの直前には、ブルックナーが「死の宣告」と呼んだホルンとトランペットの(主要主題による)リズムが響き静寂を導くが、ハ長調の堂々たる終結がそれを打ち消す。

第2楽章はスケルツォ。ヴィオラとチェロが提示する主題はどこかいびつ。躍動的な主部に対して、トリオは穏やかな音楽。緩徐楽章である**第3楽章**の主要主題は、第1ヴァイオリンが冒頭で提示する。その伴奏は長旅を続けてきた巡礼者の足取りのように重々しいが、やがて美しい和音の連鎖によって天上的な響きへと導かれる。そこでは、ブルックナーが「演劇的過ぎる」と言い、交響曲には使ってこなかったハープも採り入れられている。ヴィオラとチェロが提示する副次主題は幅広い跳躍が特徴的。これらの主題が変奏されつつ繰り返され、最終的に打楽器群を伴ったハ長調のカタルシスへといたる。

第4楽章は、弦楽器群の特徴的な音型の上で金管楽器群が主要主題を提示してはじまる。トランペットのファンファーレも印象的。ヴァイオリンとヴィオラ、ホルンによって提示される歌の主題や、巨大な生物のうごめきを思わせる結尾主題が続いてゆく。ヴァイオリンの上行音型と主要主題が繰り返されるコーダは少しずつ響きを増してゆき、最後にはハ長調の中で各楽章の中心的な主題が垂直に重なる。音楽学者ジョセフ・クラウスは、これを「魂が浄化され、時が終わった(=永遠にいたった)」と解釈する。なるほど、第8番は第1楽章の「死の宣告」をきっかけとした魂の浄化をハ長調に求める壮大な音の旅路なのかもしれない。

第1稿を書き換えて作られた第8番の第2稿は1892年に初演され、大成功を収めた。第1稿と第2稿の違いはしばしば大袈裟に語られるが、実は2つの稿はきわめて類似している。さらに興味深いことに、ブルックナーはレーヴィが読み解けなかった第4楽章をほとんど書き換えていない。こうした面から見ると、ブルックナーはやはり第1稿の出来に自信を持っていたことがわかる。実際第1稿には、第8番の原初の発想がまぶしいほどに煌めいているのだから。

石原勇太郎 Text by ISHIHARA Yutaro

作曲：1887年

初演：1892年12月18日

編成：フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ3、クラリネット3、ファゴット3(コントラファゴット持替1)、ホルン8(ワーグナーチューバ持替4)、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、シンバル、トライアングル、ハープ3、弦5部

4/12 SAT.

東京オペラシティシリーズ 第144回

2025年4月12日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.144

Sat. 12th April 2025, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

上間善之 [ホルン]

加藤智浩 [ホルン]

白井有琳 [ホルン]

藤田麻理絵 [ホルン]

松坂 隼 [ホルン]

鈴木 優 [ホルン]

庄司雄大 [ホルン]

伴野涼介 [ホルン]

ロビン・アダムス [バリトン]

小林 啓成 [コンサートマスター]

Jonathan NOTT, Conductor

UEMA Yoshiyuki, Horn

KATO Tomohiro, Horn

SHIRAI Arin, Horn

FUJITA Marie, Horn

MATSUZAKA Shun, Horn

SUZUKI Yu, Horn

SHOJI Yudai, Horn

TOMONO Ryosuke, Horn

Robin ADAMS, Baritone

KOBAYASHI Issey, Concertmaster

ラッヘンマン: マイ・メロディーズ

~8本のホルンと管弦楽のために (45')

休憩 (20')

H.Lachenmann: My Melodies

~Musik für 8 Hörner und Orchester (45')

Intermission (20')

マーラー: 「子供の魔法の角笛」より (30')

高い知性への賞歌

ラインの伝説

番兵の夜の歌

魚に説教をするパドヴァのアントニウス

死せる鼓手

少年鼓手

G.Mahler: Songs from

'Des Knaben Wunderhorn' (30')

Lob des hohen Verstands

Rheinlegendchen

Der Schildwache Nachtlied

Des Antonius von Padua Fischpredigt

Revelge

Der Tambourgesell

マーラー: 花の章 (8')

G.Mahler: Blumine (8')

●主催/公益財団法人 東京交響楽団

●後援/在日スイス大使館、ブリティッシュ・カウンシル

ジョナサン・ノットのプロフィールはP.4をご覧ください。

楽曲解説はP.10をご覧ください

4/12 SAT.

| 上間善之 UEMA Yoshiyuki [ホルン] Horn

東京交響楽団首席ホルン奏者。沖縄県立芸術大学卒業、桐朋学園大学研究科終了。元NHK交響楽団安原正幸氏に師事。シュガーホール新人演奏会優秀賞受賞。第7回日本音楽コンクール、第17回日本管打楽器コンクール、第20回日本管打楽器コンクール、各入選。仙台フィルハーモニー管弦楽団に9年間在籍。洗足学園音楽大学非常勤講師。

**| 加藤智浩 KATO Tomohiro [ホルン] Horn**

東京交響楽団ホルン奏者。東海大学付属第四(現:札幌)高等学校、武蔵野音楽大学卒業。ホルンを島方晴康、故 伊藤泰世、須山芳博、丸山勉、日高剛の各氏に、室内楽を白尾隆、吉岡アカリの両氏に師事。武蔵野音楽大学在学中、学内オーディション合格者による室内楽のタペに出演。第26回ヤマハ管楽器新人演奏会出演。神奈川フィルハーモニー管弦楽団契約団員、シエナ・ウインド・オーケストラを経て、東京交響楽団入団。



©N. Ikegami

| 白井有琳 SHIRAI Arin [ホルン] Horn

東京交響楽団ホルン奏者。北海道釧路市出身。13歳からホルンを始める。2021年武蔵野音楽大学音楽学部器楽科を卒業。2019年2020年に同大学選抜演奏会に出演。第6回K金管コンクール第1位、第4回日本ホルンコンクール第2位(1位該当者なし)、The Sixth Sense Grand Prix 2024 第3位受賞。これまでにホルンを島方晴康、西條貴人各氏に、室内楽を橋本洋氏に師事。



©N. Ikegami

| 藤田麻理絵 FUJITA Marie [ホルン] Horn

東京交響楽団ホルン研究員。武蔵野音楽大学卒業。同大学卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。アフィニス文化財団の海外研修員としてスイス、バーゼル音楽院に留学。2009年～2024年まで新日本フィルハーモニー交響楽団に在籍。尚美ミュージックカレッジ専門学校非常勤講師。アレキサンダーホルンアンサンブルジャパン、ナチュラルホルンアンサンブル東京メンバー。

**| 松坂 隼 MATSUZAKA Shun [ホルン] Horn**

福島市出身。9歳よりホルンをはじめ。東京芸大附属高校を卒業後ミュンヘンに留学。帰国後東京芸術大学に入学し在学中の2006年に読売日本交響楽団に入団。2016年より首席奏者。第74回日本音楽コンクール、第23回日本管打楽器コンクール第3位入賞。ホルンを阿部雅人、守山光三、W.Gaag、M. Neukirchnerの各氏に師事。

**| 鈴木 優 SUZUKI Yu [ホルン] Horn**

群馬県出身。東京藝術大学卒業。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXIIに参加。2014年ヤマハ新人演奏会に出演。Menagerie Brass Quintetのメンバーとして第10回チェジュ国際金管楽器コンクール金管五重奏部門第1位を受賞。これまでにホルンを高橋臣宜、守山光三、日高剛、西條貴人、伴野涼介、五十畑勉の各氏に師事。山野楽器ウインドフルー音楽教室講師。藝大フィルハーモニア管弦楽団、東京交響楽団団員を経て現在、東京都交響楽団団員。Japan National Orchestraコアメンバー。



©Ayane Shindo

庄司雄大 SHOJI Yudai [ホルン] Horn

宮城県仙台市出身。東京藝術大学卒業。第3回日本ホルンコンクール第2位。第86回日本音楽コンクールホルン部門第2位。第35回日本管打楽器コンクールホルン部門第1位。これまでにホルンを、須田一之、日高剛、西條貴人、伴野涼介の各氏に師事。藝大フィルハーモニア管弦楽団を経て、現在、NHK交響楽団ホルン奏者。Japan National Orchestra コアメンバー。ホルンアンサンブルHorshメンバー。



伴野涼介 TOMONO Ryosuke [ホルン] Horn

茨城県つくば市出身。東京藝術大学音楽学部卒。同大学大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家研修員としてフランクフルト音楽・舞台芸術大学で学ぶ。ホルンを脇屋俊介、守山光三、松崎裕、水野信行、エサ・タパニの各氏に、ナチュラルホルンをウルリッヒ・ヒューブナー氏に師事。現在、読売日本交響楽団ホルン奏者であるほか、ナチュラルホルンアンサンブル東京およびアレキサンダーホルンアンサンブル日本のメンバーを務める。



©読売日本交響楽団

Baritone Robin ADAMS

ロビン・アダムス [バリトン]

英国人バリトン歌手ロビン・アダムスは、現代音楽の世界の第一人者であり、ミラノ・スカラ座、シュトゥットガルト歌劇場、チューリッヒ歌劇場、アムステルダム・コンセルトヘボウ、バーデンバーデン歌劇場、フランクフルト歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ウィーン音楽祭、(リセウ)大劇場、ブエノスアイレス・コロソ劇場、ブリュッセル・モネ劇場、シャトレ劇場、パリ音楽堂、エディンバラ音楽祭、バービカンセンターなど、国際的な主要歌劇場や音楽祭に出演している。ジユネーブ大劇場での『アッシジの聖フランチェスコ』タイトルロール、パリ・ドートンヌ音楽祭およびブカレスト・エネスコ音楽祭での『グラン・マカブル』ネクロツァール、ベルン劇場での『アラベラ』マンドリカ、フランダース・オペラの『ヴォツェック』タイトルロールに出演予定。



The English Baritone Robin Adams is one of the world's leading interpreters of contemporary music and has appeared in most major international opera houses and festivals. They include La Scala di Milano, Staatsoper Stuttgart, Oper Zürich, Concertgebouw Amsterdam, Baden-Baden, Oper Frankfurt, Oper Leipzig, Wiener Festwochen, Liceu Barcelona, Teatro Colon Buenos Aires, La Monnaie Brussels, Théâtre du Châtelet, Cité de la Musique Paris, Edinburgh Festival and the Barbican London. Current and upcoming projects include the title role in Saint François d'Assise at the Grand Théâtre de Genève, **NEKROTZAR** in Le Grand Macabre for Le Festival d'Automne Paris and the Enescu Festival Bucharest, **MANDRYKA** in Arabella at Konzerththeater Bern, and the title role in Wozzeck at the Opera Ballet Vlaanderen Antwerp.

4/12 SAT.

ヘルムート・ラッヘンマン(1935～)

マイ・メロディーズ～8本のホルンと管弦楽のために

《マイ・メロディーズ》の誕生は、オペラ《マッチ売りの少女》がきっかけとなっている。2008年、マドリードにおけるこのオペラのスペイン初演の際に、ラッヘンマンはホルン8本だけの部分練習に立ち合った。そこで聞こえてきた8本のユニゾンと、すべてが異なった8パートの響きが素晴らしく、またいわゆる「噪音Geräusch」とは別に、それらは2和音、4和音、8和音の響きをも彼の耳に届けてくれた。そこで、ホルン8本のための作品を書くこととしてでき上がったのが《マイ・メロディーズ》である。自分にとってドイツ語の“Geräusch”は、その英訳である「ノイズ」とは異なり、自然音のようなものを肯定的に含むのだと、ラッヘンマンはあるインタビューで述べているが、日本の音感覚にも似たこの考え方が笙のソロを含む《マッチ売りの少女》を生み、またこの《マイ・メロディーズ》の創作にも影を落としている。

ミュンヘンで開催されている代表的な現代音楽祭、ムジカ・ヴィーヴァの委嘱で作曲され、2018年の同音楽祭でペーター・エートヴェシュ指揮バイエルン放送交響楽団によって世界初演された《マイ・メロディーズ》は、8人のソロ・ホルン奏者がオーケストラの前面に半円型に並んで演奏する。ソロは順に2名ずつの組み合わせが和音を形成する基本だが、それ以外にも左右対称的、あるいはより複雑な組み合わせで連携しながら、「ソロ集団」を作っており、終曲近くには全8名による50秒ほどのカデンツァが置かれている。

常に急速に進む作品で、ラッヘンマンに特有の、楽器の可能性を極限まで広げてみせる特殊奏法は、ここではマウスピースを反対側から吹いたり、チューニング・スライドを引き抜いて吹くという箇所に見られている。だがそれらは非常に部分的で、むしろ息の吹き込みと吸い込みによる無音に近い奏法が途中から主になっている点が注目されよう。それは他の管楽器にも適用され、またそのほかにも上下逆さまに置かれたティンパニをはじめ、「本来の」演奏法をはみ出した楽器は多く、それらの相乗作用によって全体は目の回るような、めくるめく音響の万華鏡になっている。

タイトルになっている「私の旋律たち」とは、ときに聞こえるスローモーション的な旋律断片を示唆しているというより、この作品自体がラッヘンマンにとって「旋律」探求へのプロセスになっていることを意味している。

なお、2023年のムジカ・ヴィーヴァでの再演の際に新たに77小節が加えられており、今回はその版での演奏となる。

長木誠司 Text by CHOKI Seiji

作曲：2016～2018年、2023年

初演：2023年6月23日ミュンヘン(改訂初演)

編成：独奏ホルン8、フルート4(ピッコロ持替4、アルトフルート持替1、バスフルート持替1)、オーボエ4、クラリネット4、ファゴット4、トランペット4、トロンボーン4、チューバ2、打楽器8(チューブラー・ベル、シンバル、スネアドラム、ウッドブロック、りん、木製譜面台、ティンパニ、ブラッテングロックン、ドラ、ボンゴ、アンティーク・シンバル、バスドラム)、ハープ2、ギター2、ピアノ2、弦5部

グスタフ・マーラー(1860～1911)

「子供の魔法の角笛」より

(高い知性への賞歌、ラインの伝説、番兵の夜の歌、魚に説教するパドヴァのアントニウス、死せる鼓手、少年鼓手)

19世紀初頭にアルニムとブレンターノが編纂した民謡詩集『子供の魔法の角笛』は、かのゲーテが「どの家庭にも聖書と『子供の魔法の角笛』を置くべきである」と語ったほど、当時広く親しまれていた。この詩集をもとに、グスタフ・マーラーはオーケストラ歌曲集『子供の魔法の角笛』に含まれる14の歌曲を、1892年から1901年までの間に作曲した。

『角笛』歌曲集には、童謡、寓話、この世とあの世、兵士や戦争といった、さまざまなテーマの詩に作曲した作品が収められている。統一的なサイクルとしては構成されていないため、選曲や曲順、またそれに伴うドラマトゥルギーの構築は演奏家に委ねられている。

最初に演奏される「高い知性への賞歌」では、かっこうとナイチンゲールの歌をロバが審査する様子が、オノマトペを織り込んだパロディ的な響きで語られる。「ラインの伝説」は、弦楽器のほかには木管楽器1本ずつ、金管楽器は柔らかな響きのホルン1本のみという小さな編成を取る。ワーグナーの『指輪』などで知られるラインの黄金伝説を描いたこの作品、オーストリアの舞曲レントラーの要素が用いられているほか、中間部の自由かつ独特な和声に耳を傾けたい。「番兵の夜の歌」では、旋律、リズム、管弦楽法の変化、そして金管楽器と打楽器による軍楽的な部分と弦楽器とハープが奏でるカンティレーナ的な部分のコントラストにより、兵士と彼に愛情を注ぐ少女の対話が描写されている。「死せる鼓手」の詩が描くのは、死に瀕した軍楽隊の鼓手と戦地における陰惨な様子だが、その内容とは裏腹に、規則的に鳴り響く軍楽隊の音楽、長調の中間部、そして「トララリ…」という歌詞が幾度も登場する様は戦争の狂気さながらだ。第2交響曲の第3楽章のもととなった「魚に説教するパドヴァのアントニウス」で歌われるのは、鯉やマス、ウナギといった魚たちが説教を聞くが、説教が終わっても彼らは変わらずその内容を忘れてしまうという、キリスト教の聖人伝説である。マーラーはそこに自らの音楽を理解しない批評家や演奏家のイメージを重ね、高音域のクラリネットなどユーモアあふれる音色で表現した。『角笛』歌曲集のなかで最後に作曲された「少年鼓手」には、絞首台へと向かう鼓手の行進の様子を詠む詩が用いられた。バスクラリネットやコントラファゴット、チューバといった低音楽器偏重の編成による一貫して暗い音色と葬送行進曲のリズムが、救いのないその様子を淡々と描くのである。

内藤眞帆 Text by NAITO Maho

作曲：1892～1901年

初演：高い知性への賞歌 1905年2月3日ウィーン、マーラー指揮

ラインの伝説 1893年10月27日ハンブルク、マーラー指揮

番兵の夜の歌 1892年12月12日ベルリン、ラファエル・マシュコフスキー指揮

魚に説教するパドヴァのアントニウス、死せる鼓手、少年鼓手 1905年1月29日ウィーン、マーラー指揮

編成：バリトン独唱、フルート2、ピッコロ1、オーボエ2(イングリッシュホルン持替2)、イングリッシュホルン1、Es管クラリネット1、クラリネット2、バスクラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ、シンバル、吊るしシンバル、バスターム、ドラ、小太鼓、トライアングル、ムチ、ハーブ、弦5部

4/12 SAT.

マラー歌曲集「子供の不思議な角笛」

[歌詞対訳] 広瀬大介 Text by HIROSE Daisuke

Lob des hohen Verstands

Einstmals in einem tiefen Tal
Kukuk und Nachtigall
täten ein Wett' anschlagen:
Zu singen um das Meisterstück,
gewinn' es Kunst, gewinn' es Glück:
Dank soll er davon tragen.

Der Kukuk sprach: "So dir's gefällt,
hab' Ich den Richter wählt,"
und tät gleich den Esel ernennen!
"Denn weil er hat zwei Ohren groß,
Ohren groß, Ohren groß,
so kann er hören desto bos
und, was recht ist, kennen!"

Sie flogen vor den Richter bald.
Wie dem die Sache ward erzählt,
schuf er, sie sollten singen!
Die Nachtigall sang lieblich aus!
Der Esel sprach: "Du machst mir's kraus!
Du machst mir's kraus! I-Ja! I-Ja!
Ich kann's in Kopf nicht bringen!"

Der Kukuk drauf fing an geschwind
sein Sang durch Terz und Quart und Quint.
Dem Esel g'fiels, er sprach nur
"Wart! Wart! Wart!
Dein Urteil will ich sprechen, ja sprechen.
Wohl sungen hast du, Nachtigall!
Aber Kukuk, singst gut Choral, gut Choral,
Und hältst den Takt fein Innen, fein Innen!
Das sprech' Ich nach mein' hoh'n Verstand,
hoh'n Verstand, hoh'n Verstand!
Und kost' es gleich ein ganzes Land,
so laß Ich's dich gewinnen, gewinnen!"
Kukkuck, Kukkuck, I-Ja!

高い知性への賛歌

あるとき 深い谷底に住んでいた
カッコウとナイチンゲールが
互いに争った
歌の名人の 座を賭けて
技に優れたほうが 運も手にする
なんと ありがたいことだろう

そこで カッコウがこう言った「ならば
お望みの 審査員を見つけたぞ
今すぐ ロバに頼んでみよう
アイツの二つの耳は デカイ
デカイ デカイから
誰よりも よく聴き取るだろう
どちらがうまいか わかるだろう

二羽はすぐに 審査員のもとへ飛び
事の次第を ご報告
ロバは言った ここで歌って見せると
ナイチンゲールは 可愛い歌を歌ったが
ロバが言うには「お前の歌は 訳がわからん
訳がわからん ヒヒーン ヒヒーン
頭が こんがらがる」

そこでカッコウ 疾風のごとく
三度 四度 五度 歌いはじめる
ロバはすっかり お気に入り
「待て 待て 待て
判定を下す 下すぞ
ナイチンゲール お前もよく歌ったが
カッコウは 素敵なコーラルを歌って見せた
拍子を守って うまく歌った
わが 高い知性には うつつけ
高い知性 高い知性には うつつけ
国ひとつにも 値する
従って カッコウを 勝ちと 勝ちとする」
カッコー カッコー ヒヒーン ヒヒーン

Rheinlegendchen

Bald gras' Ich am Neckar,
bald gras' Ich am Rhein;
bald hab' Ich ein Schätzel,
bald bin Ich allein!
Was hilft mir das Grasen,
wenn d'Sichel nicht schneid't;
was hilft mir ein Schätzel,
wenn's bei mir nicht bleibt!

So soll Ich denn grasen
am Neckar, am Rhein;
so werf' Ich mein goldenes Ringlein hinein.
Es fließet im Neckar und fließet im Rhein,
Soll schwimmen hinunter in's Meer tief hinein.

Und schwimmt es, das Ringlein, so frißt es ein Fisch!
Das Fischlein soll kommen auf's König's seln Tisch!
Der König tät fragen, wem's Ringlein sollt' sein?
Da tät mein Schatz sagen: "Das Ringlein g'hört mein!"

Mein Schätzlein tät springen Berg auf und Berg ein,
tät mir wied'rum bringen das Goldringlein mein!
Kannst grasen am Neckar, kannst grasen am Rhein!
Wirf du mir nur immer dein Ringlein hinein!

Der Schildwache Nachtlid

Ich kann und mag nicht fröhlich sein!
Wenn alle Leute schlafen!
So muß Ich wachen! Ja, wachen!
Muß traurig sein!

Lieb' Knabe, du mußt nicht traurig sein!
Will deiner warten im Rosengarten,
Im grünen Klee, Im grünen Klee!"

Zum grünen Klee, da geh' Ich nicht!
Zum Waffengarten!
Voll Helleparten bin Ich gestellt!
Bin Ich gestellt!"

Stehst du im Feld, so helf' dir Gott!
An Gottes Segen ist alles gelegen!
Wer's glauben tut! Wer's glauben tut!

ラインの伝説

時には ネッカー川で
時には ライン川で草を刈る
時には 愛しいあの娘と
時には たったひとりで
草刈りが 何の役にたつ
鎌が 切れなければ
あの娘が 何の役にたつ
ぼくのそばに いなければ

だからぼくは ネッカー川で
ライン川で 草を刈るはめに
この黄金の指輪も 流れに投げ込もう
指輪は流れる ネッカー川を ライン川を
やがて 海の底へと沈みゆく

川を漂う指輪を 魚が呑み込む
その魚は 王の食卓へのぼる
王は訊くはず この指輪は誰のものかと
あの娘はこう答えよう「その指輪 私のよ」

娘が つらなる山を跳び越えて
ぼくの黄金の指輪を 持って戻らさう
きみはネッカー川で ライン川で草を刈る
その指輪を 川へ投げ込め

番兵の夜の歌

愉快な気持ちになど なりようもない
皆が 眠っていようと
俺は起きて 見張らねば 見張らねばならぬ
これが 哀しまずにおれようか

愛しいあなた 哀しまないで
ばら咲く園で 待ってるわ
緑のクローバーに 包まれて

緑のクローバーの園になど 行かない
俺が行くのは 武器の園
武器だらけの地に 立たされる
立たされる

戦場に立つあなたに 神のご加護を
なにもかも 神のおぼしめし
そう信じる 信じるひとならば

4/12 SAT.

Wer's glauben tut, ist weit davon!
 Er ist ein König!
 Er ist ein Kaiser! Ein Kaiser!
 Er führt den Krieg!

Halt! Wer da? Rund! Bleib' mir vom Leib!
 Wer sang es hier? Wer sang zur Stund'?
 Verlorne Feldwacht sang es um Mitternacht!
 Mitternacht! Mitternacht! Feldwacht!

Des Antonius von Padua Fischpredigt

Antonius zur Predigt
 die Kirche find't ledig!
 Er geht zu den Flüssen
 und predigt den Fischen!

Sie schlag'n mit den Schwänzen!
 Im Sonnenschein glänzen,
 Im Sonnenschein, Sonnenschein glänzen,
 sie glänzen, sie glänzen, glänzen!

Die Karpfen mit Rogen
 sind all hierher zogen;
 hab'n d'Mäuler aufrissen,
 sich Zuhör'n's beflissen.

Kein Predigt niemalen
 den Fischen so g'fallen!

Spitzgoschete Hechte,
 die immerzu fechten
 sind ellends herschwommen,
 zu hören den Frommen!

Auch jene Phantasten,
 die immerzu fasten,
 die Stockfisch ich meine,
 Zur Predigt erscheinen!

Kein Predigt niemalen
 den Stockfisch so g'fallen!

Gut' Aale und Hausen,
 die Vornehme schmausen,

信じるそのひとは ここにあらずだ
 そんなひとが 王であり
 皇帝 皇帝なのだから
 そのひとが 戦を招いたのだ

止まれ 誰だ こちらを向け 俺に近づくな
 こんな場所で こんな時間に歌うとは
 真夜中に歌うは 行方不明の番兵
 真夜中に 真夜中に 番兵が

魚に説教するパドヴァのアントニウス

アントニウスが説教に来ると
 教会は もめけの殺
 そこで 川へとやってきて
 魚相手に 説教始める

魚たちが 尾びれを鳴らして 集まった
 日の光が 輝く中で
 日の光が 日の光が輝く中で
 魚たちも 輝く

腹子を抱える 鯉たちも
 皆が あつまり
 口をパクパク あけたまま
 説教に 耳傾ける

魚たち こんなに楽しい説教を
 いままで 聞いたことがない

おちよぼ口の カワカマス
 いつも 喧嘩ばかりなのに
 この日は 急いで泳ぎ来て
 その説教に 聞き入った

あの 夢見がちで
 食うや食わずの
 鱈たちさえも
 説教聞きに 現れた

鱈たちも こんなに楽しい説教を
 いままで 聞いたことがない

やんごとなき方々が 召し上がる
 味良き 鰻や蝶鮫(ちょうざめ)も

die selbst sich bequemen,
die Predigt vernehmen!

Auch Krebse, Schildkroten,
sonst langsame Boten,
steigen eilig vom Grund,
zu hören diesen Mund!

Kein Predigt niemalen
den Krebsen so g'fallen!

Fisch' große, Fisch' kleine,
Vornehm' und gemeine!
Erheben die Köpfe
wie verständ'ge Geschöpfe!

Auf Gottes Begehren
Die Predigt anhören!

Die Predigt geendet,
ein Jeder sich wendet!
Die Hechte bleiben Diebe,
die Aale viel lieben,

die Predigt hat g'fallen,
sie bleiben wie Allen!

Die Krebs gehn zurücke,
die Stockfisch' bleib'n dicke,
die Karpfen viel fressen
die Predigt vergessen, vergessen!

Die Predigt hat g'fallen,
sie bleiben wie Allen!
Die Predigt hat g'fallen, hat g'fallen!

Revelge

Des Morgens zwischen drein und vieren,
da müssen wir Soldaten marschieren
das Gäblein auf und ab;
tralal, tralaley, tralalera,
mein Schätzel sieht herab.

しぶしぶながら やってきて
その説教を 耳にする

遣いに行くのも のろい
蟹も 亀も
地の底から 急ぎ追上がり
その言葉に 耳傾ける

蟹たちも こんなに楽しい説教を
いままで 聴いたことがない

大きな魚も 小さな魚も
高貴な魚も 下賤な魚も
鎌首もたげる
分別わきまえた 生き物みたいに

神の欲するままに
説教に 耳傾ける

説教が終わると
皆が きびすをかえす
カワカマスは 盗人のまま
鰻は 浮気性なまま

説教は 楽しかったが
なにひとつ 変わらぬまま

蟹は 地の底へ戻り
鱈は でっかいまま
鯉は 大食い
説教は 忘却の彼方

説教は 楽しかったが
何一つ 変わらぬまま
説教は 楽しかったのに

死せる鼓手

朝まだ早き 3時か4時か
われら兵士は 行進せねば
小路に入り 小路を抜ける
トララリ トララライ トララレラ
俺の恋人が 見下ろしている

4/12 SAT.

Ach Bruder, jetzt bin ich geschossen,
die Kugel hat mich schwer getroffen,
trag' mich in mein Quartier,
tralali, tralaley, tralalera,
es ist nicht weit von hier!

Ach Bruder, Ach Bruder,
ich kann dich nicht tragen,
die Feinde haben uns geschlagen,
helf dir der liebe Gott, helf dir der liebe Gott!
tralali, tralaley, tralali, tralaley, tralalera,
ich muß, ich muß marschieren bis in Tod!"

Ach, Brüder! Ach,
Brüder! Ihr geht ja an mir vorüber,
als wär's mit mir vorbei, als wär's mit mir vorbei!
tralali, tralaley, tralali, tralaley, tralalera,
ihr tretet mir zu nah, ihr tretet mir zu nah!

Ich muß wohl meine Trommel rühren,
ich muß meine Trommel wohl rühren,
tralali, tralaley, tralali, tralaley,
sonst werde ich mich verlieren;
tralali, tralaley, tralala!
Die Brüder, dick gesät,
die Brüder, dick gesät,
sie liegen wie gemäht.

Er schlägt die Trommel auf und nieder,
er wecket seine stillen Brüder,
tralali, tralaley, tralali, tralaley,
sie schlagen und sie schlagen ihren
Feind, Feind, Feind,
tralali, tralaley, tralaleralala,
ein Schrecken schlägt den Feind,
ein Schrecken schlägt den Feind!

Er schlägt die Trommel auf und nieder,
da sind sie vor dem Nachtquartier schon wieder,
tralali, tralaley, tralali, tralaley,
ins Gäßlein hell hinaus, hell hinaus!
Sie ziehn vor Schätzleins Haus.
tralali, tralaley, tralali, tralaley, tralalera,
Sie ziehn vor Schätzleins Haus, Tralali!

ああ友よ 俺はいま撃たれてしまった
弾が 深く 深く食い込んだ
俺を兵舎まで 運んでくれ
トララリ トララライ トララレラ
ここからそんなに 遠くない

ああ友よ ああ友よ
僕は君を担げない
敵がぼくらを 狙い撃ち
君は神の御心に 委ねよう
トララリ トララライ トララリ トララライ トララレラ
ぼくは ぼくは 死ぬまで行進だ

ああ友よ ああ友が
俺を棄てて行ってしまふ
俺がくたばった くたばったと思ったか
トララリ トララライ トララレラ・・・
すぐそばを すぐそばを歩いてゆく

俺は太鼓を鳴らさねば
我が太鼓を鳴らさねば
トララリ トラライ トララリ トラライ
さもなきや 俺は置いてゆかれる
トララリ トララライ トララレラ
戦友たちが 地面に転がる
戦友たちが 数多く
まるで刈り取り終わった 畑のよう

鼓手が 太鼓を打ち鳴らす
鼓手が 物言わぬ戦友の目を覚ます
トララリ トラライ トララリ トラライ
戦友が撃ち続ける
敵を 敵を 敵を
トララリ トララライ トララレラ
敵は 恐怖におののく
敵は 恐怖におののく

鼓手が 太鼓を打ち鳴らす
生き残った兵が 夜の兵舎へ帰りつく
トララリ トラライ トララリ トラライ
明るい 明るい小路へ 足を速める
恋人の家へ 道を急ぐ
トララリ トララライ トララレラ・・・
恋人の家へ 道を急ぐ トララリ

Des Morgen stehen da die Gebeine
in Reih und Glied, sie stehn wie Leichensteine,
in Reih, in Reih und Glied,
Die Trommel steht voran,
die Trommel steht voran,
daß sie ihn sehen kann.
tralali, tralaley, tralali, tralaley, tralalera,
daß sie ihn sehen kann!

Der Tambourgesell

Ich armer Tambour' sell,
Man führt mich aus dem G' wölb,
Man führt mich aus dem G' wölb!
Wär' Ich ein Tambour bleiben,
dürft' Ich nicht gefangen liegen!

O Galgen, du hohes Haus,
du siehst so furchtbar aus!
Ich schau' dich nicht mehr an!
Ich schau' dich nicht mehr an!
weil i weiß, das i g' hör' d' ran,
weil i weiß, das i g' hör' d' ran!

Wenn Soldaten vorbeimarschier' n,
bei mir nicht einquartier' n,
wenn sie fragen, wer i g'wesen bin:
Tambour von der Leibkompanie,
Tambour von der Leibkompanie!

Gute Nacht, ihr Marmelstein',
Ihr Berg' und Hügelein!
Gute Nacht, ihr Offizier',
Korporal' und Musketier'!

Gute Nacht! Gute Nacht! Ihr Offizier',
Korporal' und Musketier'!
Ich schrei' mit heller Stimm',
von euch Ich Urlaub nimm!
Von euch Ich Urlaub nimm!
Gute Nacht! Gute Nacht!

朝になれば あたりにあるのは骨ばかり
屍体ばかりが 墓石のように並ぶ
列を成した 屍体ばかり
太鼓が 太鼓が 列の先頭に
太鼓が 列の先頭に
恋人に しっかり見えるよう
トララリトララライトララレラ・・・
恋人に しっかり見えるよう

少年鼓手

ほくは みじめな鼓笛兵
営業から 引き出された
営業から 引き出された
鼓笛兵の ままだったら
つかまりなど しなかった

高くそびえ立つ 絞首台
怖ろしげな その姿
お前など 二度と見ない
お前など 二度と見ない
わかつてる お前の世話になるって
わかつてる お前の世話になるって

兵士たちが 隊伍を組んで
ほくのそばで駐屯することがあれば
そして ほくがどうしたか訊かれたら こう答えて
ほくは 近衛鼓笛兵だったと
ほくは 近衛鼓笛兵だったと

おやすみ 大理石よ
山よ 丘よ
おやすみ 上官殿
伍長殿 歩兵たち

おやすみ おやすみ 上官殿
伍長殿 歩兵たち
ほくは叫ぶ 晴れやかな声で
皆さんに「暇を頂くと」
皆さんに「暇を頂くと」
おやすみ おやすみ

4/12 SAT.

グスタフ・マーラー(1860～1911)

花の章

1888年初頭、ライプツィヒ市立劇場の次席指揮者を務めていたマーラーは自身の初となる交響曲の創作に勤しんでいた。のちに第1交響曲となるその作品は、1888年3月にライプツィヒにて完成し、翌1889年にブダペストにて、全2部・全5楽章からなる「交響詩」として初演が行われた。その第2楽章として上演されたのが「花の章Blumine」である。この楽章は、作品全体の改訂を経て1893/94年に成立した「『巨人』交響曲形式の音詩」の段階では残されていたが、マーラーは遅くとも1896年までに標題を含むタイトルの撤回を決定し、それとともに「花の章」も全体から除かれた。残りの4つの楽章は「交響曲二長調」(第1交響曲)として1896年3月16日にベルリンで上演された。

「花の章」の創作は1884年に遡る。マーラーは、当時ドイツで広く親しまれていたヨーゼフ・ヴィクトル・フォン・シェッフェルの戯曲『ゼッキンゲンのトランペット吹き』への劇付随音楽を作曲していた。この戯曲の主人公であるトランペット付きのウエルナーは、貴族の令嬢マルガレータに身分違いの熱烈な恋をし、彼女に向けたセレナーデを奏でる。この劇付随音楽が、のちに「花の章」というタイトルを付されて交響詩に組み込まれたわけである。弦楽器とホルンによる短い序奏のあと、独奏トランペットによってテーマが導入される。短調や長調を揺れ動く中間部ではトランペットは不在だが、主部が回帰するとテーマが再びトランペットによって奏でられる。管弦楽法は冒頭よりも鮮やかかつ複雑になり、ハーブと高音域のヴァイオリンによって静かに幕を閉じる。

ライプツィヒ時代にカール・マリア・フォン・ウェーバーの未完のオペラ『3人のピント』を補筆完成させたことをきっかけに、ウェーバーの孫の夫人、マリオン・フォン・ウェーバーと恋に落ちていたマーラーは、「花の章」の自筆譜を彼女に献呈している。その後、駆け落ち寸前まで至った二人にとって、この楽章は特別な意味を持つセレナーデであった。

内藤眞帆 Text by NAITO Maho

作曲:1884～1888

初演:1889年 ブダペスト

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット1、ティンパニ、ハーブ、弦5部



ラッヘンマン・歌劇「マッチ売りの少女」第467回定期演奏会
(2000年3月4日)

Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

ラッヘンマンと 東京交響楽団

文：長木誠司（音楽評論家）

東京交響楽団はヘルムート・ラッヘンマンと非常に特異な出逢いをした。オペラ《マッチ売りの少女》の上演から両者の関係が始まったからである。それも、20世紀最後の年である2000年にだ。ラッヘンマンにとって、この作品は異例とも言うべきものである。それは彼が初めて書いた、現在まで唯一のオペラであり、前衛的な「現代オペラ」とは言え、オペ

ラ界全体のなかで稀有の成功作として、ハンブルクでの初演では毎回チケットが売り切れたという、異常とも言える「事件」を引き起こした作品であった。また日本の楽器である笙が初めて用いられ、それが彼特有の「特殊奏法」を伴わない例外的な扱いを受けていることも特筆されよう。

ラッヘンマンの作風として一般的にイメージされるのは、その後東響が日本初演してきた《終結音（初演の際の邦題は「よみがえる響き」）》、そして《アカント》、《ハルモニカ》、といった作品で、それぞれピアノ、クラリネット、テューバといったソロ楽器を伴い、それらに徹底した特殊奏法を施して「異化」し、いわば別の楽器にしようというものである（弦楽四重奏をオーケストラと対峙させる《ドイツ国歌を伴う舞踊組曲》の日本初演も東響は予定していたが、コロナ禍のために中止になった）。同じく日本初演した、ソロを伴わないオーケストラ作品《書》でも、オーケストラ全体に新たな奏法が課せられている。

これらのうち、主催公演が半数を占めているのは日本のオーケストラとしては稀有なことである。ことに《マッチ売りの少女》が定期演奏会で演奏されたのは、この1月に惜しくも他界した秋山和慶という存在があったからでもあり、彼の下でオーケストラの挙げた偉大な功績と言える。ラッヘンマンのオーケストラ作品の日本における受容は、1970年代にハンス・ツェンダーがNHK交響楽団で《響影》を振ったところから始まり、また昨年（2022年）は神奈川フィルハーモニーが阿部加奈子の指揮で《塵》を採り上げて話題となったが、国内での作品上演はそう多いわけでもなく、大

ラッヘンマンと東京交響楽団

半を東京交響楽団が担ってきたと言っても過言ではない。

1935年生まれ、ラッヘンマンは、第二次世界大戦後に登場したヨーロッパの前衛作曲家たちのなかのひとりではあるが、その代表者ピエール・ブレーズやカールハイツ・シュトックハウゼンなどとは一線を画す活動を行ってきている。ラッヘンマンにとって最も重要な出逢いは、上記2名と並んで「前衛の三羽がらす」と呼ばれたルイーゼ・ノーノとのそれであったろう。毎年行われていたダルムシュタット国際現代音楽夏季講習会で、過去との決別を宣言しながら進む同時代の音楽を常に批判し、過去をもういちどじっくりと聴く姿勢を要請したのが恩師ノーノであった。

ナチズムを産んだ旧ドイツを、そしてその根源にある近代ヨーロッパの啓蒙主義を葬り去った後に、新たに、より完璧な合理主義に向かおうとするのがダルムシュタットだったが、ナチズムとは別のイタリア・ファシズム下にあったノーノは、過去を否定すること自体の困難さを痛感していた作曲家であった。イタリア・ファシズムは、反資本主義、反ブルジョワを標榜しつつも、自分に都合のよい政治傾向ならば節操なくどんなものも取り込んで、富裕層とも仲良くしながら労働者階級をも味方に付けていく独裁体制であり、そうした面妖な相手に対して、全否定は意味をなさない。

それは音楽にも当てはまる。過去を葬り去るのではなく、むしろよく知るために、まずその聴き方を徹底して探求したノーノは、伝統的なオペラの可能性も否定しなかったし、また晩年にはひとつの音を長く長く聴くこと

を強いる作品を多く書いたが、ラッヘンマンはこの姿勢の根幹の部分を受け継いだ。楽器のどのような響きや鳴り方をわれわれは聴いてきたのか？ 「特殊奏法」とは言うものの、弦を擦って音を出すのが弦楽器なのであれば、ある一定の弦の部分を、一定の訓練された方法で擦った音しか認めない「普通の」演奏法の方が、よほど「特殊」なのである。

ラッヘンマンは、むしろ楽器からいろいろな音を引き出して、伝統的な音の聴き方との差異を前景化する。それを彼は「楽器によるミュージック・コンクレート」と呼んだが、声に対してもその方法は採られた。彼は故意に奇異な音を出させるわけではない。むしろ、「普通の」音を「普通に」聴いているわれわれの聴き方こそが、奇異なものとして批判されるべきなのである。

師のノーノは共産主義者であったが、ラッヘンマンの立場は、むしろ戦後のアドルノなどの批判理論と共通するかも知れない。しかしながら、その批判精神はより根源的で、政治的には右も左もない。右への過度な偏向も、左へのそれも、彼にとっては批判対象なのであり、それゆえ《マッチ売りの少女》には、不可解な獄死を遂げたドイツ赤軍派のエンズリンのテクストも登場した。また、やはり東響が日本初演した《マルシュ・ファタール（運命のマーチ）》は、行進好きのドイツ人としての自分の身に付いた行進曲への批判でもあった。そして《マイ・メロディーズ》は、自身自身の旋律意識への批判である。ラッヘンマンの批判精神は、いまだ変わることのない屈強さを示し続けていると言えるだろう。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N.Ikegami

ご芳名 (敬称略)

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(3月10日現在、五十音順)。

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社インサイド・アウト
環境ステーション株式会社
株式会社すかいらくホールディングス
株式会社ティー ワイ リミテッド
株式会社日本財託
株式会社パソナグループ

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
株式会社あ佳音
オリエンタル酵母工業株式会社
サントリーホールディングス株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
中外製薬株式会社
銚子屋油槽船株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーシンパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
税理士法人渡邊芳樹事務所

シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
司法書士法人村田事務所

ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
有限会社青史堂印刷
ニッシンエレクトロ口株式会社
富士フィルムビジネス
イノベーションジャパン株式会社
神奈川支社
前山歯科医院
株式会社LALLヒューマンホールディングス

賛助企業

東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名2社

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのため不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
~29,999円

フレンズ3

年額3万円
~49,999円

フレンズ5

年額5万円
~99,999円

サークル10

年額10万円
~249,999円

サークル25

年額25万円
~499,999円

サークル50

年額50万円~

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円~

シルバー

年額30万円~

ゴールド

年額50万円~

ダイヤモンド

年額100万円~

プラチナ

年額1000万円~

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員	サークル 会員	フレンズ会員		
				フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内		○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○	○
ご芳名掲載		○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○	○

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%分^{a)}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{a)}

*但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ **TEL 044-520-1518**

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部

E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians 楽団員紹介

明瞭且つ豊かな音色で響かせるトランペッター

ローリー ディラン

LOWERY Dylan

【首席トランペット奏者】2025年2月入団

趣味: 映画鑑賞、ゴルフ



©N. Ikegami

夢は「世界を飛び回るトランペッター」

父はトロンボーン奏者、母はピアノ奏者だったことから、私の人生には物心ついた頃から常に音楽がありました。父の友人にトランペット奏者がいて、幼いながらも彼のトランペットの響きに心を奪われ、輝いた目で見つめている写真が残っています。そして、8歳でついにトランペットを始め、当時の夢は「世界を飛び回るトランペッター」でした。小学校4年生から高校まで地元群馬県の英語イマージョン教育を行う一貫校「ぐんま国際アカデミー」に通い、吹奏楽部でトランペットを続けました。小学5年生からピッコロトランペットの名手、海保泉氏に師事し、音楽大学進学を機に上京しました。



父の友人のトランペットを見つめる2歳半の私

人生のターニングポイント

音楽大学を卒業後はフリーランスとして活動していましたが、ある時、大学時代の恩師からポストン交響楽団首席奏者であるトーマス・ロルフス氏のマスタークラスに参加する機会をいただきました。このレッスンでは、音楽表現へのアプローチや、楽器そのものへの向き合い方について新たな視点を得ることができ、長年悩んでいた部分が一気に紐解けたのです。2022年11月12日、この1時間半ほどのレッスンが私の人生を大きく変えるターニングポイントとなりました。

「さらにロルフス氏から学びたい」と思い、2023年夏のタングルウッド音楽センターのメンバーになるためのオーディションに挑戦しました。幸運にもオーディションに合格し、オーケストラメンバーとして約2カ月間、ポストン響の方々や、同年代の仲間からタングルウッドでしか得られない刺激をもらい、濃密な時間を過ごすことができました。その年の秋に帰国し、最初に挑戦したのが東京交響楽団の首席奏者オーディションでした。もしトーマス・ロルフス氏のマスタークラスを受けていなければ、今の自分はなかったと確信しています。



トーマス・ロルフス氏とトランペットセクション。(inタングルウッド)

新たな挑戦

これまで首席奏者を務める機会はほとんどありませんでした。そのため、演奏する曲の多くが初挑戦となり、入団当初から現在に至るまで、毎回緊張で吐きそうになるほどです！毎日試行錯誤ですが、今の目標は私のトランペットの音色が「東京交響楽団の音」として認識されるようになることです。2025/26シーズンはトランペットが活躍する曲が多くあり、その一つが《花の章》。初めて演奏する曲なので、全力で取り組みたいと思います。これからも新たな挑戦を続け、さらに成長していきたいと思っています！

インタビュー: 事務局

—ノート監督LAST SEASON に寄せて— (全4回)

東京交響楽団 事務局長 辻 敏 TSUJI Tsutomu

2011年10月11日、私はジョナサンと共に空港に向かう車に乗っていた。たった5日間2公演の共演で音楽監督の就任を依頼するために。

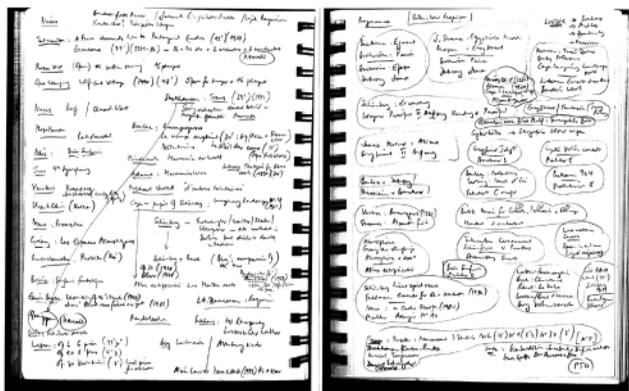
私の方は勝手にジョナサンを次期音楽監督の最有力候補と考えていたわけで、他の指揮者が評価を得て周囲から色々と言われても、「とにかく10月まで待って欲しい」と伝えた。実際彼が2011年10月に指揮した「ダフニスとクロエ」は未曾有の大成功を収め、監督打診へと繋がっていった。

車に乗る際に開口一番、その旨をストレートに伝えたと、大層驚いていたものの、大きな興味を示してくれた。秋山・スダーン両氏が培った礎の上に次の大きな花を咲かせるためには、ジョナサンの現代音楽まで及びながらも古典やロマン派を中心に据えた膨大なレパートリー、想像を越えたコンセプトを持ったプログラミング、そして彼独自の真摯な音楽作りが欠かせないことを熱弁した。車を降りる際に、「Thank you very much for your crazy offer!」と言われ空港で見送った。ひょっとしたら、この瞬間に彼の気持ちは既に定まっていたのかも知れないと今になって思う。

実際にマネジメントを介した交渉がスタートしたのは、年明けからだ。相手は、アバドやハイティンク、ラトル等を手掛けていたマネジメントの社長で、サインに至るには3回の訪欧を含めて実に半年以上の時間を費やした。前職から面識はあったものの、得体の知れない迫力と包容力を兼ね備えた人で、正に必死に話し、メールを送った。最後に「感動した」と彼から届いたメールは今でも保存している。発表記者会見では、ジョナサンの名前は伏せ、当日の記者会見で本人の登壇と共に発表し、会場を沸かせた。

長い交渉の末何とか契約に辿り着き、プログラミングの相談が始まった。ノート2ページにぎっしりと書きなぐられた数十個のプログラミング案には、驚き、同時に楽しくなってきた。このプログラム案は今でも持っている。裏をかくことが好きな我々は、通常なら最後に演奏することの多いマーラーの交響曲第9番を、最初の定期演奏会の演目に取り上げることにした。前プロには、武満氏の「セレモニアル」を提案した。神々が舞い降りて式典が始まるような独特な雰囲気のように始まるマーラーは、得も言えぬ風合いを醸し出した。実はこの時から、最後の曲目は再びマーラーの交響曲第9番にしたいと腹の中で決めていた。

こうして10年以上に及ぶ、ジョナサンとの音楽の旅が始まることとなった。



ぎっしりと書き込まれたノート監督直筆のプログラミング案 ©TSO

NEWS & TOPICS

楽 団 人 事

2025年4月1日付

相澤政宏 AIZAWA Masahiro
[客演首席フルート奏者]



©N.Ikegami

正 団 員

2025年2月1日付

ローリー ディラン LOWERY Dylan [首席トランペット奏者]

群馬県出身。8歳よりトランペットを始める。上野学園大学音楽学部音楽学科演奏家コース(トランペット専攻)を卒業。これまでに海保泉、高橋敦、杉本正毅、田中敏雄、オッタビアーノ・クリストフオリの各氏に師事。2019年、第89回新人演奏会(読売新聞社主催)に出演。パーチャ・フロレス、トーマス・ロルフス、ベンジャミン・ライトの各氏によるマスタークラスを受講。2023年にはボストン交響楽団主催のタンフルウッド音楽祭にて、タンフルウッド音楽センター (TMC)のオーケストラメンバーとして参加。現在、東京交響楽団首席トランペット奏者。



©N.Ikegami

白井有琳 SHIRAI Arin [ホルン奏者]

北海道釧路市出身。13歳からホルンを始める。2021年武蔵野音楽大学音楽学部器楽科を卒業。2019年2020年に同大学選抜演奏会に出演。第6回K金管コンクール第1位、第4回日本ホルンコンクール第2位(1位該当者なし)、The Sixth Sense Grand Prix 2024 第3位受賞。これまでにホルンを島方晴康、西條真人各氏に、室内楽を橋本洋氏に師事。



©N.Ikegami

新 入 団

2025年3月17日付

山本未央子

YAMAMOTO Mioiko [事務局]

東京交響楽団 桂冠指揮者 秋山和慶氏 逝去



東京交響楽団桂冠指揮者秋山和慶氏が、2025年1月26日肺炎のため逝去しました。

1964年の当団デビュー以来、約60年の長きにわたり秋山和慶氏には当団の伝統と歴史を作っていただきました。楽団の経営破綻、再建という苦しい時代も共に乗り越え、当団との1350回を超える共演では、シェーンベルク、ラッペンマン、アダムス、ヘンツェ等の声楽付き大規模作品の数々の日本初演を行い、当団を多数の音楽賞へ導いていただきました。東響コーラス創立にも深く関わり、創立以来、幾多の共演を重ねてまいりました。

昨年には指揮者生活60周年を迎え、記念公演となった第724回定期演奏会では、秋山氏本人がかねてから希望していたブルクナー「交響曲第4番《ロマンティック》」で共演。流麗なタクトから生みだされる、自然で美しい《ロマンティック》は満員の聴衆を魅了しました。昨年12月31日にミュエザ川崎シンフォニーホールで開かれたジルバスターコンサートが当団との最後の共演となりました。

1月31日にミュエザ川崎シンフォニーホールで行われたお別れの会には、全国各地のオーケストラ関係者、音楽関係者等約800人が足を運び、故人を偲びました。

ここに生前の秋山和慶氏の東京交響楽団およびクラシック音楽界への多大なる貢献に対し、心からの感謝とともに深い哀悼の意を表します。

公益財団法人東京交響楽団



お別れの会では東響メンバーによる弦楽四重奏で(J.S.バッハ:G線上のアリア)を献奏した

NEXT PROGRAM

5/24 (土) 第730回 定期演奏会
18:00 サントリーホール

指揮: 沼尻竜典

ピアノ: マルティン・ガルシア・ガルシア

バルトーク:

組曲「中国の不思議な役人」

リスト:

ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 S.124

チャイコフスキー:

交響曲 第4番 へ短調 op.36

S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥4,500 P¥3,000

TOKYO SYMPHONY チケットセンター
044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 / 土日祝休)



写真 © Fadil Berisha

 **PILOT**

人と創造力をつなぐ。



株式会社パイロットコーポレーション

東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ

公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュゼザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開。教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市80公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R.シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど各メディアで絶賛された。

桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スザン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。



The Tokyo Symphony Orchestra, together with music director Jonathan Nott, has been attracting attention as a leader in the Japanese orchestra world. Elektra in Concert Style(2023) won the 1st prize in the "Top 10 Concert 2023" following the 2nd prize of Salome in Concert Style(2022) on Ongaku no Tomo magazine as well as the Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven filmed by 45 cameras, the largest record of the orchestra history live-streamed nationwide, Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's Da Ponte Operas in concert style. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 80 concerts in 59 cities since 1976. Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 as Toho Symphony Orchestra, and changed its name to Tokyo Symphony Orchestra in April 1951, and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera, and has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
[TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION]
1か月550円(税込)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROADCAST
Symphony

Symphony 2025年(令和7年)4月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュージアムセントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネススクリエット